

## 第2表 (小)

学校名 清瀬市立清瀬第八小学校 (自閉症・情緒障害学級)

### 2 指導の重点

#### (1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動の指導の重点

##### ア 各教科

- ・個別最適な学びや協働的な学びの充実を図るために、学習方法や教材、学習時間等をニーズに応じて柔軟に設定する。
- ・個別指導計画を基に、児童の障害の状況や特性に応じて、「時間の構造化」「指導内容の構造化」等の指導方法をスモールステップ化し、学習の焦点化を図る。
- ・児童一人一人の障害の状況や特性に応じて、「場の構造化」、「刺激量の調整」、「ルール明確化」「相互理解の場の設定」等の環境面の工夫を徹底する。
- ・運動習慣の確立を目指した体力の向上を図るために、児童の実態に応じたグループを編成して指導する。
- ・笑顔と学びの体験プロジェクト等による出前授業で、オリンピックやアスリートを誘致し、運動に対する意欲を高め体力向上につなげる。

##### イ 道徳科

- ・板書の工夫やICT機器の活用により、自他の様々な考え等を視覚化させることで、自他の考えを理解させ、話し合いを活発にし、考え、議論する道徳を実現させる。

##### ウ 外国語活動

- ・外国語による日常生活に結び付いた対話を中心としての言語活動を重点に置き、外国の言語や文化に対する関心を高め、外国語でのコミュニケーションを図る素地を養う。

##### エ 総合的な学習の時間

- ・児童自ら興味・関心をもとにして学習課題を選択し、自主的、自発的に学習できるようにする。問題解決では、学校図書館や公共図書館、ICT機器を活用させ、情報活用能力の育成を図る。

##### オ 特別活動

- ・児童一人一人の障害の状況や特性、ニーズに応じた自立的な係活動等に取り組みせ、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。

##### カ 自立活動

- ・個に応じた「心理的な安定」や「人間関係の形成」を図る上で必要な力の育成に重点を置き、障害による学習上、生活上の困難を改善・克服することを目的とした指導を行う。
- ・「学校2020レガシー」として、「ボッチャ」に取り組む。

#### (2) 生活指導

- 学校生活や日常生活におけるルールやマナーを理解し、周囲の状況に応じて的確に判断し、行動できる力を育成する。
- 5年生におけるスクールカウンセラーによる全員面接、アセス(学級適応感尺度)の活用等により、児童同士の関わり合い等について把握し、必要に応じて指導、支援を行う事でいじめおよび不登校の未然防止に努める。

### (3) 進路指導

- 進路情報について、入級時若しくは就学相談時から継続して提供する。
- 各教科の学習及び特別活動を通して、児童の自己理解・自己管理能力や課題対応能力、人間関係形成・社会形成能力を育成する。
- 生活科や総合的な学習の時間、社会科の学習において、様々な職業の地域人材を招聘し、児童のキャリアプランニング能力及び職業観、勤労観を育成する。

第2表の2（小）

学校名 清瀬市立清瀬第八小学校（自閉症・情緒障害学級）

3 特色ある教育活動・その他の配慮事項等

○「読む力」を育てる

文章を読む力や読み取る力、語彙数の拡充を図るために、学校図書館を活用した読書活動を推進していく。

○「調べる学習」の推進

探求課題を解決しまとめる力、情報活用能力の育成を図るために、学校図書館やSchool-e-library等を課題解決に活用する資料活用力の資料活用力、ICT機器等の検索機能の活用力などを身に付けさせる。

<配慮事項>

- 児童相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むために、年間を通して学級を決めて、通常の学級との交流活動を計画的に実施する。
- 児童の実態に応じて交流及び共同学習を実施し、教科等のねらいを達成させる。
- 特別支援学級担任による通常の学級における障害理解教育を実施し、障害理解を促進する。